

名古屋(みよし)校舎におけるネットワーク事情と情報セキュリティの変遷

岩田 員典(経営学部)

私が愛知大学に赴任したのは2003年4月であり、早いもので2012年度には10年目に入ります。そこで、赴任当時を振り返り名古屋(みよし)校舎のネットワーク事情とセキュリティに関してどのように移り変わってきたかを端的に述べたいと思います。

まずネットワーク事情ですが、2003年当時はグローバルIPアドレスに余裕があったのか3台分をいただくことができました。3台分もらっておきながら当初は2台分しか使っていませんでした。さらには研究室にルータ(家庭用のブロードバンドルータ)を導入してからは1台分しか使っていなかったのも、後にグローバルIPアドレスの不足により返還することになってからも特に困ることはありませんでした。これとは別に無線のネットワークも当時は未整備であったため、自前の無線アクセスポイントを設置してそこに接続をしていました。学内の無線の整備が進むと同時に混線を避けるために撤去することになりました。このように大学のネットワーク事情は当時のネットワークの問題や発展と密接に関わって変わっていたように思われます。

次に情報セキュリティに関してですが、同じく2003年当時の状況を述べますと、大学としてはほとんど何も意識していなかったように記憶しています。ファイアウォールの設定などもなく内外からのすべてのアクセスが可能だったはずで、SSHではなくTelnetで学外からサーバにアクセスできていました。また、現在のようにMACアドレスの登録も必要ありませんでしたし、ウイルス対策ソフトの有無なども申告の必要がなかったはずで、このような状況を思い返すと、現在では大学としてのセキュリティ意識は高くなり(時にはユーザに不便な思いをさせることもありながらも、セキュリティと利便性は相反することが多いので仕方ないですが)、大学としてほぼ十分な取り組みを行っているのではないかと思います。さらなる情報セキュリティ対策はユーザ単位に及ぶので、各ユーザへの啓蒙と指導があるのではないのでしょうか。

このように簡単に変遷について振り返りましたが、新名古屋校舎は今まで以上に外部から出入りする方も増えると思われれますので、使いやすくも堅固なセキュリティになるように整備されることを祈って結びとさせていただきます。